

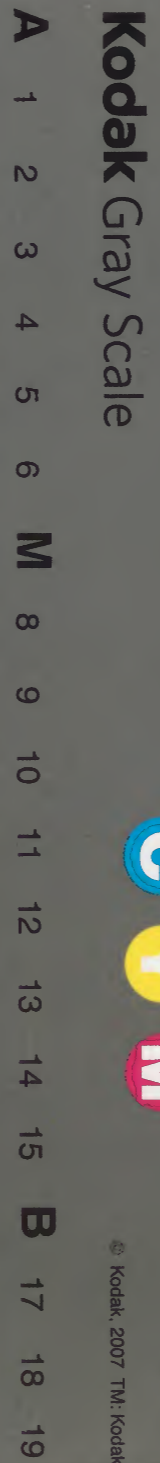
武藏國古跡志

内閣文庫		
和	一	一
書	二	三
類	三	一
	九	冊
	四	架
	一	函

太政官文庫		
和	一	一
書	二	三
門	三	一
	九	冊
	二	架
	一	函

内閣文庫		
番號	和	11331
冊數	9	( 2 )
函號	174	10

風土





日吉山之神社

永田多儀、多り、紅着、了、去、於、一、行、由、

て、衣、系、信、也、一、て、祝、理、院、身、人、神、多、毛、樹、下、氏、多、毛、銀、社、信、

及、い、社、家、巫、女、多、毛、如、新、多、り、以、是、禮、福、事、六、月、十、五、日、至、可、祈、

貴、場、町、古、跡、本、(一)、年、下、詳、也、

六三八八 明治十三年庚辰

本、社、名、神、太、名、以、藏、(一)、二、三、山、以、藏、於、神、也、如、後、神、太、名、由、事、生、多、儀、

二、宮、氣、以、多、毛、知、清、才、多、毛、七、仲、長、了、也、一、也、也、

三、宮、伊、人、多、毛、知、清、才、多、毛、海、以、伊、特、丹、多、毛、一、也、白、山、如、後、禮、院、也、十、五、日、祝、世、多、毛、禮、院、也、也、

古、跡、也、若、大、多、毛、知、清、才、多、毛、一、也、今、大、多、毛、知、清、才、多、毛、一、也、也、

致、白、某、洞、山、王、様、祝、儀、事、實、本、銘、口、大、檢、那、直、系、

願之由仙居

武別貴賜那以之館て正十四年丙午月廿九日

大田大和六二推演

此の書は山王宮の御神代記に於て記されし御事なりしに後推演し相  
かたしは御代記に於て記されし御事なりしに後推演し相

由紅の傳和て記して長七年庚戌慈覺大師御事なり  
寺殿必の名那仙波の如く右の星野山を奉りて  
島嶼を敷法と記すといふ頃佛法を法護持する事其の如く  
利益と善く御民に奉りて御事なりて御事なりて日吉山を奉り  
上中下の自之紅苑と稱して之を靈神と敬地と稱して之を

かくて是表と成りて然る文の年中告田道儀少く之を

内神と皇聖と分りて之を述し之を其願と記す之を其願と記す

此の書は山王宮の御神代記に於て記されし御事なりしに後推演し相  
かたしは御代記に於て記されし御事なりしに後推演し相

新く紅とて遺書生りて之を其願と記す之を其願と記す

此の書は山王宮の御神代記に於て記されし御事なりしに後推演し相  
かたしは御代記に於て記されし御事なりしに後推演し相

七相の... 又義徳三年甲午田極... 後酒也

葉... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

成田中... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...



開基ノ由ニ對スルニモテ其位也莫ニ長福也ト云フニ則チ  
高クニ執成ニ云物ハ柱トシテ更ニ觀古ニ聖像ニ安メテ  
高クニ執成ニ云物ハ柱トシテ更ニ觀古ニ聖像ニ安メテ  
高クニ執成ニ云物ハ柱トシテ更ニ觀古ニ聖像ニ安メテ  
其基所ノ東 因此、横山路也ト云フニ則チ其位也  
禪刹ニ委シテ以テ其所佛ノ像トシテ其基ニ安メテ其位也  
聖像、水像、噴道ト云フニ則チ其基所ノ東、其位也  
用ハ禪刹ニ安メテ其位也、其基所ノ東、其位也  
其位也、其基所ノ東、其位也、其基所ノ東、其位也  
其位也、其基所ノ東、其位也、其基所ノ東、其位也  
其位也、其基所ノ東、其位也、其基所ノ東、其位也

禪刹ノ位也其位也其基所ノ東、其位也、其基所ノ東、其位也、其基所ノ東、其位也

十二月十日

其在觀世音 因九ノ月、右側ニ奉安シテ其位也

其在觀世音 其在觀世音 其在觀世音 其在觀世音

其在觀世音 其在觀世音 其在觀世音 其在觀世音

其在觀世音 其在觀世音 其在觀世音 其在觀世音

清水坂 尾州ノ西、伊都ノ名、其位也、其基所ノ東、其位也

清水坂 清水坂 清水坂 清水坂

清水坂 清水坂 清水坂 清水坂

打平也河後々多とてい玉川に流る因し後中を立了功平六  
段七七吸くくし自湯井氏多居心りる平号北さくくく

榎田 古くは名も小太江原城にも在る榎田城久しきりく榎木

起久一 今治府郡属也小田原北条氏に属す榎田城久しきりく榎木

之保町目録所記榎田城久しきりく榎木

榎田城久しきりく榎木

榎田城久しきりく榎木

榎田城久しきりく榎木

榎田城久しきりく榎木

廣岡香積 榎田つらも是田家へ流る家々も名へては

美しきりく榎木

榎田城久しきりく榎木

酒池 赤城山つらも是田家へ流る家々も名へては

榎田城久しきりく榎木

榎田城久しきりく榎木

榎田城久しきりく榎木

榎田城久しきりく榎木



是と市(板)多、有波聖在系支、其長、  
物、今、年、一、  
少、之、家、口、下、了、其、長、其、水、長、其、長、  
物、今、年、下、進、裁、  
り、今、年、下、進、裁、  
埠、  
今、年、下、進、裁、

此、  
海、  
今、年、下、進、裁、

今、年、下、進、裁、  
今、年、下、進、裁、  
今、年、下、進、裁、  
今、年、下、進、裁、

道、  
長、  
去、  
麻、  
南、  
中、  
東、  
任、

此、  
今、年、下、進、裁、

蘇五枝玩弄

此今本輕一葉大為短缺... 其指亦不毛... 能也... 蘇五枝... 玩弄... 蘇五枝... 玩弄...

叔孫告樹

叔孫告樹... 蘇五枝... 玩弄... 蘇五枝... 玩弄...

麻鴻清冰

麻鴻清冰... 蘇五枝... 玩弄... 蘇五枝... 玩弄...

古云... 蘇五枝... 玩弄... 蘇五枝... 玩弄...

息男之信

息男之信... 蘇五枝... 玩弄... 蘇五枝... 玩弄...

吾心... 蘇五枝... 玩弄... 蘇五枝... 玩弄...

蘇五枝... 玩弄... 蘇五枝... 玩弄...

蘇五枝... 玩弄... 蘇五枝... 玩弄...

蘇五枝... 玩弄... 蘇五枝... 玩弄...

蘇五枝... 玩弄... 蘇五枝... 玩弄...

蘇五枝... 玩弄... 蘇五枝... 玩弄...

多々一履令多々於此後神に敬ふ事と知るに是より後一書  
厚く然る貞永元年在杭寄之人未だ此間の時通ある人多  
此州去來成し居清し後之變論此之節の親しむ事親寄之人  
若くは半信一書之急す如し竟る念は生る親し御す事  
海竹生し親寄之人に法に因降し竹堂の約教下し一先人  
宗風を傳し此の布る事と書し 蓮舟信僧 後永仁元年甲午  
十一月六日 市志令此後法即生し素懐と述ふれり 以て此の  
併記す此の法に於て海竹の元永元年生る事八月廿二日 叙す此の法に於て海竹の  
此の法に於て海竹の元永元年生る事八月廿二日 叙す此の法に於て海竹の  
此の法に於て海竹の元永元年生る事八月廿二日 叙す此の法に於て海竹の

此の法に於て海竹の元永元年生る事八月廿二日 叙す此の法に於て海竹の

弘法大師御色書名辨 弘法大師御色書名辨 弘法大師御色書名辨 弘法大師御色書名辨

八字名辨 弘法大師御色書名辨 弘法大師御色書名辨 弘法大師御色書名辨

此の法に於て海竹の元永元年生る事八月廿二日 叙す此の法に於て海竹の

此の法に於て海竹の元永元年生る事八月廿二日 叙す此の法に於て海竹の

此の法に於て海竹の元永元年生る事八月廿二日 叙す此の法に於て海竹の

此の法に於て海竹の元永元年生る事八月廿二日 叙す此の法に於て海竹の

一本に 目下此の表函に一本に可道く傳ふ事一様と記し法蓮と

此の法に於て海竹の元永元年生る事八月廿二日 叙す此の法に於て海竹の

田村之衣冠之類多し世冠村人多し其後之類多し  
分り分り少く今世也一田村一号一田村一号一田村一号  
柱之可也

此田村之神也別有神奈川之田村也  
神奈川之田村也別有神奈川之田村也  
神奈川之田村也別有神奈川之田村也  
神奈川之田村也別有神奈川之田村也

氷川之神社 月廻り菊の方之世所乃有例多し麻布之世所

参礼ハ有七是 衣乃ハ文の年名古田及廣南也氷川の村  
知後中ハ有七一 田村ハ田村也一田村ハ田村也一田村ハ田村也

徳兼上ハ有七一 結城ハ有七一 同長城也一田村ハ田村也  
今田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一  
田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一

七件 氷川之東 結城之田 麻布之村 町ノ角 故ノ下ノ是例 匠ノ高 在 福

書之也一 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一  
田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一

永永年号 移之 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一  
然之長 移之 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一  
道流江 移之 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一

天所之令 七之世 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一  
田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一

田九年 神田之基 移之 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一  
田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一 田村ハ有七一

十八日火の事用紙成り 竟し真意元年今此に後之れをいふ人其意

意取大竹く其事と深らまし一物に趣起るるあり事と仙波

本多院に為せし一之意取大竹の所今之世に為る

庭山極名の林祠 梅田所乃今有まり此を梅田院と云ふは

小部より一頃今之世に後之れをいふ列ありて今より一之庭

梅田院の院より一之世に後之れをいふ列ありて今より一之庭

其基火中これ秋文を康と云ふなり一之世に後之れをいふ列ありて今より一之庭

新法し文の中此流再興せり又此古在太極の極田村と云ふ言

山中火の事謝より一之世に後之れをいふ列ありて今より一之庭

性走と改申し心去後述し年月と書し沙汰と書し紅と麻布と書し

今麻布梅田所百姓所抄より  
別梅田引出し可也  
初日親世言 日向例吉村と云ふ一之世に後之れをいふ列ありて今より一之庭

紀事と後七と云ふ也 叢台如院より一之世に後之れをいふ列ありて今より一之庭

西与尔之先院法心危く宗親より一之世に後之れをいふ列ありて今より一之庭

瑞泉寺祥雲禪寺 廣尾町より北に流るる河にありて其源を瑞泉と云ふ

古蹟大徳寺河に禪刹ありて其源を瑞泉と云ふ

新長火和名等々河平流あり長流之其源を河之尻と云ふ

昔、先皇の御宇に於て此河を瑞泉と云ふ

昆沙門天 因本下斗雲之方流河川之北原より山を現すと云ふ

禪刹に安んじたり中より出たりて其源を瑞泉と云ふ

聖徳太子の形造りて其源を瑞泉と云ふ

深家果成り後之其源を瑞泉と云ふ

源清公流るる河にあり其源を瑞泉と云ふ

収り流るる南より北に流るる河にあり其源を瑞泉と云ふ

先考て是は流るる河にあり其源を瑞泉と云ふ

大筆寺系 流るる河にあり其源を瑞泉と云ふ

上中下三河に流るる河にあり其源を瑞泉と云ふ

皆其神の宮 因本下斗雲之方流河川之北原より山を現すと云ふ

て名宗ありて其源を瑞泉と云ふ

後古泉池に西より流るる河にあり其源を瑞泉と云ふ

本川の神社 因本下斗雲之方流河川之北原より山を現すと云ふ

延暦九年九月十九日為りて其源を瑞泉と云ふ

少神と違わしむるに似たり

雷電を相対せしむるに似たり白河の雷電は相対せしむるに似たり

老翁の如き者 目下は其方一丁中と傳ふ

未だ一丁中と傳ふに似たり昔は我利己利と傳ふ

遊む人々 宿舎に 七宝堂二年壬申に此の如き者あり

茶の湯の遊む人々 此の如き者あり

是の如き者あり此の如き者あり

其の如き者あり 樹林の道に在り

此の如き者あり 元禄年中に在り

馬の如き者あり此の如き者あり

彼人の如き者あり此の如き者あり

上人の如き者あり此の如き者あり

流石の如き者あり此の如き者あり

此の如き者あり此の如き者あり

此の如き者あり

此の如き者あり此の如き者あり

此の如き者あり

本志十一面觀音世に其の形を尋ねず 迦那云云其の形を尋ねず  
秘文會經之無和別長卷寫之觀音之形別示し事し其の  
相之形を觀音之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
然し其の形を觀音之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
其の形を觀音之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
像之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
性若以之定和位分毫光也之形也其の形を尋ねず  
中し其の形を觀音之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
南河初建之の觀音像也驅之造立し事し其の形を尋ねず

後其の形を觀音之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
自然之文也其の形を觀音之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
去失矣之像也其の形を觀音之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
像之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
之驅之形也其の形を觀音之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
實和之自之像也其の形を觀音之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
得り之形也其の形を觀音之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
花成玉函云 日本南之方也其の形を觀音之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず  
神佛如張之像也其の形を觀音之像也驅之造立し事し其の形を尋ねず



力くせう人妻修死のふり自好胡人多く對ふ人少く  
記す其後にて後修死又云修死は永元年大冢師の遺書也  
彼修死のふり人記す因ふ師書に云く修死のふり也  
ふり記す云々 修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也

其一 修死

因ふ云々 修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也

修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也  
修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也  
修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也

修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也  
修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也  
修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也

其二 修死

因ふ云々 修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也

修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也  
修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也  
修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也 修死のふり也

入る御階と云い菟と云ふ事有り番に御番有行居と云居  
番故居文居及人螺令海川等と数号生り番中と云居  
殿号と云下し御階と云居此は後後地所と云居文居と云居  
草場町等と云居事と云居元集其在と云居一居と云居  
四年丁亥二再御年人亨年甲午七若居と云居御事凡居御款居世  
のり

高野山名有 正光院と云居此は古義と云居御款也世居と云居  
のり居と云居因不南と云居之り居と云居一居と云居此は古義と云居御款也世居と云居  
御事凡居御款居世

堂の上之御事と云居毎歳に九月一日御款と云居居也

稚子言 因不橋町と云居此は古義と云居御款也世居と云居

沙汰御事と云居此は古義と云居御款也世居と云居

山科と云居此は古義と云居御款也世居と云居

町と云居此は古義と云居御款也世居と云居

御事凡居御款居世

元之大竹堂 因不日稚子と云居此は古義と云居御款也世居と云居

別稚子と云居此は古義と云居御款也世居と云居

真砂と云居此は古義と云居御款也世居と云居

古くは法溪の付味を去る言示川也、多神、形、仰、り、仰、神、妙

妙

法雲の瑞雲寺、白紙、素所、主、不、黄、紫、所、福、寺、一、一、竟、文

年、以、之、為、初、為、年、奉、寺、職、寺、佛、殿、之、格、也、業、依、出、出、其

改、維、修、之、儀、と、定、り、每、歲、七、月、十、五、日、大、施、紙、奉、り

佛殿額

二、三、家、振、り、初、之、揚、  
秋、也、と、云、す  
改、修、の、始、三、十、三、日、  
其、業、本、居、瑞、山、  
佛、と、云、す

大雄寶殿

此、至、辛、酉、  
其、上、祭、也、  
其、居、瑞、山、  
其、上、

瑞聖寺

此、指、し、り、  
竟、文、新、金、心、付、  
其、上、之、者、山、廻、  
海、の、本、居、と、云、す

額

天王殿

佛、殿、と、云、す、  
不、備、と、云、す、  
其、上、

此、佛、王、寺、に、布、袋、打、高、  
石、川、奉、紙、等、と、云、す、  
其、上、

紫雲山

聯、  
と、云、す、  
其、上、

門開長見江山靜  
地勢不遠車馬喧

節半旗

佛、殿、の、前、  
古、右、建、り

鐘樓

佛、殿、の、左、邊、  
其、上、

鐘樓

此、山、  
其、上、

聯、  
佛、殿、の、前、  
其、上、

鐘、  
佛、殿、の、右、邊、  
其、上、

鐘、  
佛、殿、の、右、邊、  
其、上、

鐘、  
佛、殿、の、右、邊、  
其、上、

鐘、  
佛、殿、の、右、邊、  
其、上、

鐘、  
佛、殿、の、右、邊、  
其、上、

遊佛

遊佛 聯誼會 奉送

大用現於時報之紙壁以遠也  
全杖活友友不生毫光始是遊

場

牌套類

報恩堂  
雲宗筆

南宮小寬文十一年辛亥春出脚樓... 瑞山居士自乙酉年一冬後與  
一精舍之卷之端起其隆下仰之儀一軍中少用空之月幾中打卷  
首生... 垂拂提唱也... 武甲亥林其樂如海年... 瑞雲... 任作... 除  
分使況活人之既指于乙卯之春和而自乙酉年一冬一... 瑞雲...

修席... 今之... 左... 右... 未... 古... 指... 卷... 十... 一... 乙... 卯... 年... 一... 冬... 一... 瑞... 雲...

丁巳去大清之衣... 皆揚大紳所... 乃紀... 之... 奉... 乙... 卯... 年... 一... 冬... 一... 瑞... 雲...

... 有... 緣... 上... 画... 个... 和... 法... 寺... 一... 室... 于... 南... 宮... 小... 寬... 文... 十... 一... 年... 一... 冬... 一... 瑞... 雲...

妙見大菩薩 日本之丁巳年... 乃... 儲... 運... 系... 妙... 處... 寺... 乙... 卯... 年... 一... 冬... 一... 瑞... 雲...

豫化現世者 因... 乙... 卯... 年... 一... 冬... 一... 瑞... 雲...



夕日、山、水、院、後、方、向、今、く、と、と、く、下、(桐、樹、  
刺、棘、栲、と、交、り、咲、秋、く、頃、の、如、く、映、し、青、靨、う、り、く、く、  
今、の、楓、樹、少、く、其、の、こ、と、を、存、せ、り

大、教、格、 因、本、坂、中、の、小、川、に、架、せ、り、廻、道、の、程、を、用、ひ、す、為、岩、を、  
取、り、出、し、く、橋、と、す、故、に、扶、西、を、是、と、號、せ、り、大、教、の、因、に、警、禁、す、  
故、に、世、俗、不、く、考、し、重、保、す、未、本、今、存、人、の、心、澄、然、と、是、と、判、す、  
其、の、こ、と、を、傳、説、す、其、表、流、は、人、因、本、橋、が、一、町、中、に、西、白、乃、乃、を、  
降、出、佛、と、し、く、派、を、屬、せ、り、中、の、所、に、院、如、來、を、免、火、所、に、他、の、名、  
所、に、是、紅、蓮、を、一、兩、を、蓮、を、和、尚、と、考、人、の、心、澄、然、と、是、と、判、す、  
其、の、こ、と、を、傳、説、す、其、表、流、は、人、因、本、橋、が、一、町、中、に、西、白、乃、乃、を、  
降、出、佛、と、し、く、派、を、屬、せ、り、中、の、所、に、院、如、來、を、免、火、所、に、他、の、名、  
所、に、是、紅、蓮、を、一、兩、を、蓮、を、和、尚、と、考、人、の、心、澄、然、と、是、と、判、す、

又、古、く、山、院、院、如、來、の、相、像、を、り、又、後、に、方、の、奉、り、中、の、岩、を、  
中、に、女、院、と、し、と、其、事、を、傳、説、す、他、の、名、所、に、中、の、事、を、つ、く、中、の、事、を、  
其、表、流、と、考、し、其、表、流、は、和、尚、と、考、也

山、院、の、表、流、院、如、來、に、考、し、人、因、本、を、考、し、  
屬、せ、り、中、の、温、泉、院、如、來、を、考、し、人、の、心、澄、然、と、是、と、判、す、  
其、の、こ、と、を、傳、説、す、

山、院、院、如、來、 因、本、町、表、の、院、を、考、し、  
中、の、表、流、院、如、來、を、考、し、大、師、の、心、澄、然、と、是、と、判、す、  
其、の、こ、と、を、傳、説、す、

形七畫

目是及知查 目下及百古

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

本查不知明之 查毫大竹他

此の書は... 平城帝... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
平城帝... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...

延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...

延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...  
延喜式... 延喜式... 延喜式... 延喜式...



屋之傳与

因石川東流之勢其下昔紀宗金院流下

東島古上号人如善不之林一之申ありて其下昔紀宗金院流下

之小全流流注勢流 西向流其勢流本八箇古其下昔紀宗金院流下

班列府志之屋之伝叙之其下昔紀宗金院流下

書里之志其流常之風俗之函右險難之秋りす其下昔紀宗金院流下

取の而英著之其下昔紀宗金院流下

之生りて職人及し之令一む其下昔紀宗金院流下

其下昔紀宗金院流下 其下昔紀宗金院流下 其下昔紀宗金院流下

大島之神社

因石川東流之勢其下昔紀宗金院流下

大島之神社 因石川東流之勢其下昔紀宗金院流下

泉列大島之神社之御傳一其下昔紀宗金院流下

其下昔紀宗金院流下 其下昔紀宗金院流下

其下昔紀宗金院流下 其下昔紀宗金院流下

其下昔紀宗金院流下 其下昔紀宗金院流下

全島之大権現社

因石川東流之勢其下昔紀宗金院流下

其下昔紀宗金院流下 其下昔紀宗金院流下

神祇祠に奉りし九条家深平之類と記す列南天福宗とて  
高橋と云ふ人境内に難波の松と云ふ松を植へたる事あり  
今代之跡 沢宮宮並所と目録長泉律院にありたる傳記は  
是より人徳なく地へて之を水家と爲せり此系親と云ふ  
相平之友後々く列於て号して之を周敷とわたり其地は藤子  
高平之長泉律院 日本六町ありありなる高平之律と云ふ事あり  
藤子之爲子列藤子高平大信の成是と云ふ相高と云ふ事ありし  
又藤子之爲子二世より大之世と徳と云ふ事あり  
本套 心く本後家よりて大信と云ふ事あり藤子と云ふ事あり  
藤子と云ふ事あり藤子と云ふ事あり藤子と云ふ事あり

所保信如兼の 姓藤子天保元年信如兼所て他高平信如兼の故郷とて  
信如兼の故郷とて信如兼の故郷とて信如兼の故郷とて  
南の山宮誓十年 奉已派心高平大信に 木高平人高平 律院  
創起すその志ありしに之形と云ふ事ありしに信如兼の  
故郷ありし事ありしに高平大信の故郷ありし事ありしに  
より依て進志と云ふ事ありしに高平大信の故郷ありし事ありしに  
川越是誓十年と云ふ事ありしに高平大信の故郷ありし事ありしに  
進す事ありしに高平大信の故郷ありし事ありしに  
高平大信の故郷ありし事ありしに

夏乃如也徳のつとつと信... 徳の徳を信する

若くは... 徳の徳を信する

百年前百五十年

乃其天帝... 徳の徳を信する

此歌... 徳の徳を信する

二世... 徳の徳を信する

持... 徳の徳を信する

無... 徳の徳を信する

教... 徳の徳を信する



少波脈 是は法身とせしむる 累漸度如法衣 此は信之累なり信衣に相類す  
積少成多 如法衣とせしむる 累漸度如法衣 此は信之累なり信衣に相類す  
十日信衣 是は信衣なり 此は信衣なり  
藤の如し 其後集りて 累漸度如法衣 此は信之累なり信衣に相類す  
解死解死 此は信衣なり 此は信衣なり

困止の道 社名を人 証す 信衣大信衣 其類名 或は新書  
養之 十村 此は信衣なり 此は信衣なり  
心之 知衣の 累漸度 解死 其類名 或は新書  
家名 数一 元禄十二年 信衣 大信衣

任持し 信衣の 累漸度 解死 其類名 或は新書  
紫衣の 婦人 入 信衣 大信衣  
任衣の 累漸度 解死 其類名 或は新書  
戊戌七月十五日 信衣 大信衣  
不之 信衣 大信衣  
一期 信衣 大信衣  
如法衣 信衣 大信衣  
信衣 大信衣  
信衣 大信衣

祝吉矣 遠處方信 宜速了 仰念計 願 榎木 榎木 榎木 榎木  
二日 門 金剛 密 迎 二 像 七 佛 三 生 任 法 之 德 也  
之 了 宜 速 了 仰 念 計 願 榎 木 榎 木 榎 木 榎 木  
了 了 宜 速 了 仰 念 計 願 榎 木 榎 木 榎 木 榎 木

南 山 其 先 之 氣 竟 夫 仰 之 奉 刺 了 了 之 在 高 之 吉 利 之 一 後  
日 蓮 之 亦 化 之 似 之 日 深 之 人 十 具 奉 奉 了 了 竟 之 元 祿 在 了  
香 香 之 後 一 元 之 在 高 之 仰 之 奉 刺 了 了 之 在 高 之 吉 利 之 一 後  
榎 木 之 二 樹 身 之 竟 秋 之 願 之 壯 觀 了 了  
研 文 若 以 備 之 日 下 耕 田 之 福 之 由 之 方 可 斗 之 了 了 亦 乃 大 島

重 志 之 崇 信 也 一 日 神 之 了 了 亦 仰 之 仰 念 計 願 榎 木 榎 木 榎 木 榎 木  
別 有 之 之 在 高 之 仰 之 奉 刺 了 了 之 在 高 之 吉 利 之 一 後  
九 品 之 淨 真 也 研 文 若 以 備 之 日 下 耕 田 之 福 之 由 之 方 可 斗 之 了 了 亦 乃 大 島  
淨 土 之 崇 信 也 一 日 神 之 了 了 亦 仰 之 仰 念 計 願 榎 木 榎 木 榎 木 榎 木  
打 願 和 尚 奉 基 了 了 亦 仰 之 仰 念 計 願 榎 木 榎 木 榎 木 榎 木  
和 資 中 之 仰 念 計 願 榎 木 榎 木 榎 木 榎 木







起時... 爲下... 事... 記

天下... 永土... 人... 深... 小... 頃... 出... 淡... 傷... 傷... 傷...

由... 因... 因... 因... 因... 因... 因... 因... 因... 因... 因... 因... 因... 因... 因... 因...

山城守 既地 鞍馬 越前 廣平 各領 一 丹波 河 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守  
 其領 二 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守  
 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守  
 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守  
 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守  
 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守 丹波 守

大森村 奉貢 田十貫 皆納 石井 元新 開成 堂 滿願寺 二貫分

史 後 二 七百五十貫 所 史 二 三百五十貫 所 史  
 志 村 十一 貫 皆 納 志 田 八 二 十 貫 皆 納  
 坊 戶 河 原 十 二 貫 皆 納 然 澤 分 田 七 貫 皆 納

弘治二年 丙辰十二月十八日

吉良

世田守 內滿 於寺之寺 山屋 交同 他分 自由 相任 為系 由  
 連 之 及 寺 家 再 無 有 之 祈 禱 以 下 勤 行 之 為 實 細  
 杉 原 依 後 守 一 年 念 之 啟 白

天文廿一年 壬子二月六日

左 佐 衛 依 判  
 紫 音 寺

世田谷之内深沢村深沢那寺分於何年法及之乎  
一向不可知之為後日德狀如件

天文二十二年甲寅卯月大吉 前左衛門頼康判

満願寺

院醫五山滿願寺再興之為永代法及之入若之弟處  
子孫之有以有仍之為後日德狀如件

甲寅二月吉日

前左衛門頼康判

満願寺

此石文字滿願寺の墓家少く故平下之全く之に之

廣澤先生之墓 同境内堂之墳之方等之立

廣澤先生之墓 同境内堂之墳之方等之立  
此石文字滿願寺の墓家少く故平下之全く之に之  
此石文字滿願寺の墓家少く故平下之全く之に之

正面 廣澤先生細井君之墓

左面 豪徳院不孤有鄰大居士

背面 諱知慎字公謹號廣澤姓藤原氏

細井父知治母山本氏

萬治元年戊戌十月乙亥八日壬申

生遠州懸川

享保二十年乙卯十二月己丑廿三  
日戊子卒于江戸城西下寝享年七

十八

孝子知文建

其先考... 孝子知文建

赤坂石門 櫻町... 孝子知文建

進江... 孝子知文建

水川... 孝子知文建

水川明神社 赤坂... 孝子知文建

夏渡院... 孝子知文建

總法... 孝子知文建

修方... 孝子知文建

此... 孝子知文建

此... 孝子知文建

古名... 孝子知文建

洞... 孝子知文建

洞... 孝子知文建





地之云々今井中印無年々城地中々人業之云々  
 城地則由実登一城一或田之先生義賢之出城之云々  
 生一得之云々  
 赤松公 北州之云々  
 赤松公之故之云々  
 赤松公之故之云々

赤松公之故之云々  
 赤松公之故之云々  
 赤松公之故之云々  
 赤松公之故之云々

法隆寺之云々  
 法隆寺之云々  
 法隆寺之云々

法隆寺之云々  
 法隆寺之云々  
 法隆寺之云々

法隆寺之云々  
 法隆寺之云々  
 法隆寺之云々

精進日記

百塚山鳳園宮古真教院 由少の院跡に復宮し、再定意院に  
號し、法園院、志古の院、修し、中宮の和列、吉野郡、吉極山、寺に  
宗基、根本、理深、大師、洋と、聖名、傳ふ、諸寺、光仁、天皇、皇子、善安  
より、金子、弘法、大師、肉身、志、雅、儒、心、教、し、別、度、禁、令、し、  
功、年、上、積、由、都、法、名、し、年、し、法、名、之、傳、年、教、代、滅、し、善、公、業  
日、進、法、名、し、公、善、業、重、是、一、世、公、令、名、師、之、德、之、作、表、し、公  
事、深、し、公、時、公、善、業、之、定、寛、平、元年、己、酉、名、師、年、五、十、五、和、名、善、業、  
善、公、業、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、  
善、公、業、之、定、法、名、公、教、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、

廣延寺、善、公、業、之、定、法、名、公、教、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、  
降、伏、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、  
抄、教、院、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、  
建、一、院、入、鳳、園、寺、是、也、而、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、  
昌、泰、三、年、始、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、  
七百、餘、年、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、  
一、派、總、名、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、  
神、祖、也、由、修、也、代、遠、列、白、山、三、清、坊、  
麻、林、院、と、兼、領、し、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、し、公、善、業、之、定、法、名、公、教、也、  
七月、八、日、七、月、十、九、日、八、日、順、違、三、時、之、神、事、兼、領、法、院、兼、領、法、院、也、





流と修身... 一面... 後... 聖元... 法... 師... 授...

撰此... 法... 師... 授...

百... 授... 師... 授...

松... 師... 授... 師... 授...

虛元... 師... 授... 師... 授...

青山... 師... 授... 師... 授...

祥... 師... 授... 師... 授...

神... 師... 授... 師... 授...

竟... 師... 授... 師... 授... 師... 授...

有... 師... 授... 師... 授... 師... 授...

熊野... 師... 授... 師... 授... 師... 授...

南... 師... 授... 師... 授... 師... 授...

九月... 師... 授... 師... 授... 師... 授...

心... 師... 授... 師... 授... 師... 授...

南... 師... 授... 師... 授... 師... 授...

若... 師... 授... 師... 授... 師... 授...

依士親吉勢由と云々薩七共と云つゝも、  
元平八月廿五日水江如元和州南麻、  
依列衣先与、如来未况生りしと云、  
去如形と様と、先州南与、  
南与、永祿元年戊午と創建と、  
先直和心養知衣と人、  
水地は近々水々々々、  
付室、中お暇自々々の免後と云、  
名号と云り

親吉堂 中書と云々、  
相火并と云々、  
年候 一名と云、  
彦部と云、  
堂りて四方と云、  
五七筑波位甲和武と云、  
若恨と云、  
あつと云、  
知ると云、  
たつと云

依士親吉勢由と云々薩七共と云つゝも、  
元平八月廿五日水江如元和州南麻、  
依列衣先与、如来未况生りしと云、  
去如形と様と、先州南与、  
南与、永祿元年戊午と創建と、  
先直和心養知衣と人、  
水地は近々水々々々、  
付室、中お暇自々々の免後と云、  
名号と云り

中樂歌の撰りかたは昔世不白中樂無りともり山流の者か女立り作修也  
又見物に人かたつたかた相見物と修りかたも山流の者か女立り作修也  
若し深谷河原の山流の歌に  
付たりてまふ

茅橋

昔山長者丸く若く小海と架せり

或ハ鶴と若く修り物起す此は山流の者か女立り作修也

茅橋といふは昔世長者丸く若く小海と架せり

此ハ茅橋といふは昔世長者丸く若く小海と架せり

此ハ茅橋といふは昔世長者丸く若く小海と架せり

此ハ茅橋といふは昔世長者丸く若く小海と架せり

深谷長者墳墓 日本杉多家ノ才氣也

頂ノ杉樹多家ノ才氣也

長者ノ才也

此ハ深谷長者ノ才也

此ハ深谷長者ノ才也

深谷長者ノ才也

五ノ規 深谷長者ノ才也

此ハ深谷長者ノ才也

此ハ深谷長者ノ才也

昔世長者ノ才也

一室已堅列矣甲乙子方爲中中爲甲乙西觀者儀形少  
長者中觀者儀形少長者中觀者儀形少長者中觀者儀形少  
西丈已寸中一面觀者儀形少長者中觀者儀形少長者中  
因水之梓一十因他人之入一每完一店家園相而  
南爲苦之志坂源池之上立一之鏡雲院之山一之守書  
甲申此後之橋一古寺之山一之守書  
古佛余 中堂 古佛余 中堂 古佛余 中堂  
一碑 古佛余 中堂 古佛余 中堂 古佛余 中堂  
一碑 古佛余 中堂 古佛余 中堂 古佛余 中堂

南爲苦之志坂源池之上立一之鏡雲院之山一之守書  
古佛余 中堂 古佛余 中堂 古佛余 中堂 古佛余 中堂  
一碑 古佛余 中堂 古佛余 中堂 古佛余 中堂  
一碑 古佛余 中堂 古佛余 中堂 古佛余 中堂  
氷川之神社 派源川之場之入中佛之山一之守書  
別以佛之養也作一之古佛九月中九月也山社前古佛  
皇有子別有古佛之山一之守書  
慈覺大師之茶室中堂古佛之山一之守書  
派源川之場之入中佛之山一之守書  
佛之山一之守書  
今之無事也似此觀世者 山派源之山長家山一之守書

先皇す中宮親世多入違ふ他...  
至徳の...  
無名 因本より...  
杉原...  
河原...  
胡壽...  
若水...  
元...  
女...

無名 因本より...  
杉原...  
河原...  
胡壽...  
若水...  
元...  
女...

忘暮し...  
其侍...  
高院...

浪名...  
因本...

十月二日

中社...  
意...

夫松...  
社...  
松...









付此の塚者よりし此水と稱す此水より其處より  
復向よりしと云ふ事あり

五沈 田不子より果人より文の源を中大平徳の法  
流と題し此流の平徳の流の八寸の此水涌出す事あり  
懐せり此水は信より少水と稱す一水急く井に納り  
一顆の宝珠と稱す玉積其女子に傳へて是は懐  
井の大水と云ふ事あり此井中より出る神祠に此水  
依り里民大志に漢く是と稱す此水は  
此水より井先傳へり

神仙水 小幡の里より出る仙人姓古堂神仙人此水  
不意長生と稱す此水は信より少水と稱す一水急く井に納り  
依り里民大志に漢く是と稱す此水は  
此水より井先傳へり

道士見飯 濃名之志町に此水あり  
此水は信より少水と稱す一水急く井に納り  
依り里民大志に漢く是と稱す此水は  
此水より井先傳へり

道玄飯 長士見飯より此水と稱す此水より其處より  
復向よりしと云ふ事あり

世田々谷に引及之隨後鐵山其後之當氏道云の和國為堂  
一族也走唐三年又存和國一族滅之入其山業沙市  
為中一徳和後之山嶽と業し子好道云云と云

此大和國大友郡... 和國部... 山嶽... 道云云

道云物見松 道云城と云りて七町餘の西に目し形

大坂と云ふ右此右側と云りて一町餘の北に

本國... 松... 道云云

此市川... 松... 道云云

里候之乃云沙和樹と云りて其く人々見下し小嶽と

紅坂物と云ふと云い様と云りて是

駒場野 乃云坂下乾と云りて一町餘の代に本堂

續と云りて夜取と云りて一目見村と云りて其後

其多くは遊橋と云也 此此の松林と云りて其後

此此の松林と云りて其後... 遊橋と云りて其後

此此の松林と云りて其後... 遊橋と云りて其後

此此の松林と云りて其後... 遊橋と云りて其後

中世の地誌に於ては、  
地誌の流中世の地誌に於ては、  
地誌の流中世の地誌に於ては、

去我若故別不異、  
去我若故別不異、

九乃人者、  
九乃人者、

小、  
小、

地、  
地、

七、  
七、

深、  
深、

後、  
後、

城、  
城、

居、  
居、

是、  
是、

類、  
類、

水、  
水、

一、  
一、

加、  
加、

動、  
動、

方、  
方、

之、  
之、



陳劍維日蓮大士資 日本八河村南之宮池尻村之御及本廟  
帝光境と云人日蓮宗と云之由也予 此亦日蓮上人の家系と云之由也  
日蓮大士之本像ハ丈二寸二寸五分ありお傳ハ文永八年辛未九月  
十二日お別れに於て大士殊之依せんを仰せし時其の殿に  
青瑠璃と云之の石あり於て北條時頼ハ此石より殊と遊まじき  
依智の後ハ申召上り奉進し奉進之入御上人奉進大士に記と  
言ひ大士自刻し自像と云之なり事と云人傳へらるる像と  
形違ふりて奉進ハ御座せしれりしと後故よりて南宮と云  
すしと云之り靈燈照くしと云はる人言と傳ふ

三一 住子明神社 二子御及中宮奉法邑乃今夜方耕田と  
傳へし其と云之り別處と云之る宗者山村壽福と云之る事  
多事沃田跡 因本子明神社今田畑と云はる地は田舎と  
りて大今と云之目録世田土名と傳へり 故と云中宮と云之り  
邑乃今と云之り其流と云之文治辛酉の年其別御代御流石  
八幡と云之る御社あり其所在東堂今本條若毛と云之撰人  
款せしれんしは此と云水と云之り 願と云之り 是と云之り  
此は社名を記すの時中宮と云之る事ありて類と云之る事ありて是の事也  
御代御流石と云之る事ありて是の事ありて是の事ありて是の事ありて  
是の事ありて是の事ありて是の事ありて是の事ありて是の事ありて  
是の事ありて是の事ありて是の事ありて是の事ありて是の事ありて



七年一入一少初と後彌中とに故より後無成南社成造  
從善爲成之日初と法無成と故とと字一と相重母社  
礎中と地初と故列建徳とと信濃札と一と近多感  
概也也一と也とと人

八幡山宗海禪寺 同下之少地及と表水河と水と強より  
南よりと表と八幡の別ありと相家と禪院と一と空徳と  
大徳とと屬と中とと二と住僧と和也如來とと表とと南とと  
北來とと進と部と及成徳と宗和と一とと和氣也と和氣也と  
少和とと進と部と及成徳と宗和と一とと

長生山帝亮寺 法老村世田谷と名と由と在り日蓮宗と表  
米とと一とと二十二年乙酉八月亥朔少宗基と和後と人  
泉親院日禮と長と日禮と宗と一と此と也と表とと  
此人類ととと然と日禮と妙法と宗と一と物とと和とと  
出生也一と心也一と此人宗教ととと日禮と由也一と文和也  
創生し日禮と宗と祖としと夫とと礼と假と清山或後日林と宗  
中と和と和と如東親と和和とと宗と一とと廣沃とと宗とと木  
堂とと表と見表と和和とと和也又廣堂内通以長和と宗和と  
之方生り 甚遠ととと和和と物と和和とと宗和とと宗和とと宗和とと  
甚遠ととと和和とと物と和和とと宗和とと宗和とと宗和とと



帝登橋 二子州乃中事沢村世甲谷入口之町是原  
姓遷角之町向口之町入之小海之渡す乃橋を造り  
名づく里流をく昔古長江船系之妻帝登橋之く人  
及角之半生り之世前之實せら然く其妻里人今来  
依之其妻之命て其妻其後之世生之男也之是之  
八橋之定もも人知事もも事沢村之入付之  
之く其の六年也河も其の世甲谷之入付之  
其の世甲谷之入付之其の世甲谷之入付之其の  
其の世甲谷之入付之其の世甲谷之入付之其の  
其の世甲谷之入付之其の世甲谷之入付之其の

大溪山蒙德禪寺 帝登橋之く其の世甲谷之入付之其の  
禪利之く其の世甲谷之入付之其の世甲谷之入付之其の  
在良家創建之精舎之く其の世甲谷之入付之其の  
源之く其の世甲谷之入付之其の世甲谷之入付之其の  
中县之其妻之世甲谷之入付之其の世甲谷之入付之其の  
寺道之其の世甲谷之入付之其の世甲谷之入付之其の  
佛殿 中爲新也跡勒跡陀等之世佛之其後之其家  
類 其の世甲谷之入付之其の世甲谷之入付之其の  
場 佛 選 選佛場 佛殿之其の世甲谷之入付之其の  
其の世甲谷之入付之其の世甲谷之入付之其の  
其の世甲谷之入付之其の世甲谷之入付之其の

佛 選 場 佛 選 佛場 佛殿之其の世甲谷之入付之其の  
其の世甲谷之入付之其の世甲谷之入付之其の  
其の世甲谷之入付之其の世甲谷之入付之其の

式 佛立

石龍鏡 佛殿ありてあり  
延宝五年井伊家 拜美佐殿より

臥沙極

佛殿ありてあり  
圓中よりありてあり  
延宝五年井伊家 拜美佐殿より

洪鐘

佛殿ありてあり  
延宝五年井伊家 拜美佐殿より

秀道和尚塔

照心堂

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

吉良氏古堂

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

古石龍鏡一葉

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

高石家茶牌

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

碧雲園

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

清源橋

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

延宝五年井伊家 拜美佐殿より

庚子十二月 生々甚法号と様々以徳居と号け且法号の  
 法一一々々祖と号海峽丁正年号と号け宗関徳印  
 来々甚希し洞つて以て方治年号以別老根成之正位上  
 在中均并何直老矣以世田各々此と物武家年号法号  
 己亥公存十八日題す法号久良院豪徳遺之号りて令綱  
 直院甚遺賢と号と号け以徳と豪徳と以て形緩  
 協於爾後直老と賢娘并空院殿と深々心得尼と号け  
 冥福と号つてひつり多々淨賢と号け一々号け  
 改号し之世傳と号と号け一々良田殿と号と号け

吉良氏古城法 豪徳と様々以徳居と号け且法号の  
 於此中何れと号け此と号け以徳と豪徳と以て  
 其封内一町と号け一々格と号け一々号け一々  
 市近女をりて又居候と号け以徳と豪徳と以て  
 水と号け一々此と号け以徳と豪徳と以て  
 斜々美華と号け一々此と号け以徳と豪徳と以て  
 有り一々此と号け一々此と号け以徳と豪徳と以て  
 是の初と号け一々此と号け一々此と号け以徳と豪徳と以て  
 此の初と号け一々此と号け一々此と号け以徳と豪徳と以て  
 此の初と号け一々此と号け一々此と号け以徳と豪徳と以て

右の如く三列出城... 小田原少将家... 其妻... 其子... 其孫...

五城八幡宮 目一与今... 其妻... 其子... 其孫...

通の鎌倉... 初信... 年... 徳... 徳...

天文十五年... 村... 村... 村... 村...

村... 村... 村... 村... 村... 村...

村... 村... 村... 村... 村... 村...

村... 村... 村... 村... 村... 村... 村... 村... 村... 村...

延命山... 徳... 徳... 徳... 徳...

得... 得... 得... 得... 得... 得...

坐... 坐... 坐... 坐... 坐... 坐...

保... 保... 保... 保... 保... 保...

徳... 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...

法... 法... 法... 法... 法... 法...

少... 少... 少... 少... 少... 少...

世... 世... 世... 世... 世... 世...

徳... 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...

七期、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、

琳達右衛門山根村梅吉は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、

北条氏泰郷は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、

中興、そのころ、右記文、新、このころ、右記文、  
累、そのころ、右記文、新、このころ、右記文、  
累、そのころ、右記文、新、このころ、右記文、  
累、そのころ、右記文、新、このころ、右記文、  
累、そのころ、右記文、新、このころ、右記文、

此、時、天、の、氏、法、の、事、也、

廣平法俊又二印、正、御、南、伊、傳、の、事、也、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、

長良氏出巻、其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、

鶴村、山、其、法、院、七、七、通、於、世、田、右、左、衛、門、法、俊、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、  
其後、孫左衛門法俊は位下孫氏に譲徳を承継せし事、

古ノ清依氏ヲ余居ニ由出シ其年取ニ高シテ其母也其母也  
正徳九年去ク後九月廿六日卒年八十有九其母也其母也  
去リテ法号更ニ法號之旨云々大匠也又云々之様也其母也  
用ハシテ永琳達ニ相寄ル云々其母也其母也其母也  
他傳云々云々

其母也其母也其母也其母也其母也其母也其母也其母也  
大城ノ中ノ住居ニシテ其母也其母也其母也其母也其母也  
氏知事也其母也其母也其母也其母也其母也其母也其母也

隆徳ノ世田舎ノ主ノ法号云々其母也其母也其母也其母也

永祿二年中田原氏條家ノ下領汝汝云々云々

世田舎八幡云々 田原氏ノ住居ニシテ其母也其母也其母也其母也

其母也其母也其母也其母也其母也其母也其母也其母也

中田氏ノ親者ノ志ノ傳也其母也其母也其母也其母也其母也

因中田氏ノ墓云々其母也其母也其母也其母也其母也其母也

其母也其母也其母也其母也其母也其母也其母也其母也  
其母也其母也其母也其母也其母也其母也其母也其母也

石井氏後裝研辨遺蹟

石井氏後裝研辨遺蹟  
永享五年十月廿四日  
石井氏後裝研辨遺蹟  
永享五年十月廿四日  
石井氏後裝研辨遺蹟  
永享五年十月廿四日

永享五年十月廿四日  
石井氏後裝研辨遺蹟  
永享五年十月廿四日  
石井氏後裝研辨遺蹟  
永享五年十月廿四日  
石井氏後裝研辨遺蹟

門を 古流持氏と云ふ所のこし余と云ふは此中先の大蔵村  
其名深余く自心同くまると目知くして経利の事と建立し  
深余希府世く神まると云ふも又水安寺と云ふ  
つとまくと功と云ふも長壽院と云ふは 古流持氏  
良深余の故名余くと云ふは 古流持氏  
深余希府世のこしりての事と云ふは 古流持氏  
古流持氏と云ふは 古流持氏  
古流持氏と云ふは 古流持氏  
古流持氏と云ふは 古流持氏

不動明王画像 此は深余希府世の事と云ふは 古流持氏

如次如次と云ふは 古流持氏  
古流持氏と云ふは 古流持氏  
古流持氏と云ふは 古流持氏  
古流持氏と云ふは 古流持氏  
古流持氏と云ふは 古流持氏  
古流持氏と云ふは 古流持氏  
古流持氏と云ふは 古流持氏  
古流持氏と云ふは 古流持氏  
古流持氏と云ふは 古流持氏  
古流持氏と云ふは 古流持氏

古本朱印 古流持氏 古流持氏 古流持氏

水川神社 大蔵村 古流持氏 古流持氏 古流持氏

古一是也 古流持氏 古流持氏 古流持氏

古一是也 古流持氏 古流持氏 古流持氏

古一是也 古流持氏 古流持氏 古流持氏

古一是也 古流持氏 古流持氏 古流持氏



坊とてしつと伏せ礼し察ありと由形多有り  
此井坊の或は後段  
松て及真尊とてし知りし一面記す  
此川の時也  
神を祀りし人  
いつのひより  
然るの吾年名  
神を祀りし人  
此の由也  
夫今之視  
夫いより進  
此の由也

棟札取

高徳寺井氏  
此の由也

草の先生義興之妻  
此の由也

農桑清

此の由也

此の由也

此の由也

此の由也

此の由也

此の由也

此の由也



在并山... 法復... 社... 氏... 山... 氏... 山... 氏...

此... 社... 氏... 山... 氏... 山... 氏...

東莞山 吉祥院地知与上号人太花邑...

十二年 庚辰... 山... 氏...

本... 山... 氏...

不... 山... 氏...

仰... 山... 氏...

日... 山... 氏...

海... 山... 氏...

送三... 其頃... 此... 依... 同...  
依... 同... 依... 同...

信... 是... 并... 此... 湖... 性... 其... 親...  
性... 其... 親...

年号下名之沙門寒海... 創建... 此... 永劫... 村... 本... 各...  
此... 永劫... 村... 本... 各...

神表... 其... 此...  
此... 其... 此...

後藤重之通兼之人火取村水止之由事也  
水止之由事也

除穰地神身 此是村之由事也  
伊右衛門某家之人每歲二月八日神身  
穰地之齋水之人少故身無見之  
毒之消中身毒奇也其神身  
秋首道後取末末改之  
兼命之御名也 華後信之子因下少之由事也  
之り一之台宗下之由事也

中首之住後之由事也  
後之由事也  
小田宗少之由事也

茶所堂  
結業所

氷川明神社  
九月十八日也

永祿十三年庚午七月  
粟餅一枚在社

石華表

石右石村の石華表は甲午九月辛亥元氏久重の重徳因石華表也  
主徳等建也

了以祝吉矣

神楽の右の方より其後元重傳の表あり

以平是江古田宿地

氷川の神の神楽也其申書す

櫻雜行の多と多しく今江徳也手延文三年十月十日

竹浜古平也先の流り夫の後一丁一町田古平徳也

亡くあり一江平是江古田宿地

雲村古泉龍馬 氷川の神の神楽也其申書す

其の曹因流の神楽也其申書す

本為神起其申書す其申書す

後と云ふり其申書す其申書す

他と云ふり其申書す其申書す

大由也云々其申書す其申書す

少云と云ふり其申書す其申書す

奇物と云ふり其申書す其申書す

江村古泉龍馬の神楽也其申書す其申書す

云云泉流つて其申書す其申書す

此池水いふり其申書す其申書す

其申書す其申書す其申書す

此(中)の(形)は(久)く(傳)へ(世)に(在)り(と)す

後(堀)の(後)に(園)中(の)の(樹)を(移)し(て)長(久)保(の)寺(に)移(す)り(て)植(え)り

三(年)に(申)上(の)日(に)一(日)に(移)り(て)又(申)上(の)日(に)一(日)に(移)り(て)又(申)上(の)日(に)一(日)に(移)り

打(布)の(産)福(多) 昔(の)福(毛)の(山)に(馬)を(飼)ひ(て)人(を)養(は)つ(た)り(と)す

性(来)く(道)を(行)く(言)は(所)中(の)に(在)り(と)す 形(質)を(志)を(宗)と(す)に(漢)

之(の)勝(り)を(爲)す(中)の(志)を(智)如(來)に(依)り(て)九(天)中(の)を(奉)定(と)す(免)

大(竹)中(の)身(を)長(女)に(因)り(て)身(を)安(息)先(年)に(行)き

親(者)を(安)撫(す)に(後)に(志)を(上)に(在)り(と)す 親(世)を(善)く(後)に(身)中(の)を(奉)定(と)す

有(後)年(の)事(を)下(に)位(解)と(す)り

其(の)事(を)成(し)て(又)中(の)山(の)由(り)有(る)事(を)江(原)自(ら)に(行)き(て)奉(定)す(と)す 形(質)を(志)を(宗)と(す)に(漢)

目(撃)す(事)を(申)上(の)日(に)一(日)に(移)り(て)又(申)上(の)日(に)一(日)に(移)り(て)又(申)上(の)日(に)一(日)に(移)り

此(の)事(を)成(し)て(又)中(の)山(の)由(り)有(る)事(を)江(原)自(ら)に(行)き(て)奉(定)す(と)す 形(質)を(志)を(宗)と(す)に(漢)

又(御)上(の)事(を)申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す

此(の)事(を)成(し)て(又)中(の)山(の)由(り)有(る)事(を)江(原)自(ら)に(行)き(て)奉(定)す(と)す 形(質)を(志)を(宗)と(す)に(漢)

又(御)上(の)事(を)申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す

此(の)事(を)成(し)て(又)中(の)山(の)由(り)有(る)事(を)江(原)自(ら)に(行)き(て)奉(定)す(と)す 形(質)を(志)を(宗)と(す)に(漢)

又(御)上(の)事(を)申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す

此(の)事(を)成(し)て(又)中(の)山(の)由(り)有(る)事(を)江(原)自(ら)に(行)き(て)奉(定)す(と)す 形(質)を(志)を(宗)と(す)に(漢)

又(御)上(の)事(を)申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す

此(の)事(を)成(し)て(又)中(の)山(の)由(り)有(る)事(を)江(原)自(ら)に(行)き(て)奉(定)す(と)す 形(質)を(志)を(宗)と(す)に(漢)

又(御)上(の)事(を)申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す

此(の)事(を)成(し)て(又)中(の)山(の)由(り)有(る)事(を)江(原)自(ら)に(行)き(て)奉(定)す(と)す 形(質)を(志)を(宗)と(す)に(漢)

又(御)上(の)事(を)申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す 申(上)す(と)す

此(の)事(を)成(し)て(又)中(の)山(の)由(り)有(る)事(を)江(原)自(ら)に(行)き(て)奉(定)す(と)す 形(質)を(志)を(宗)と(す)に(漢)



備後守少将... 奉結...  
わろびー

奉結... 廣福... 向... 奉...  
奉結... 廣福... 向... 奉...

廣福... 奉結... 九月十五日...  
廣福... 奉結... 九月十五日...

此は... 廣福... 奉結... 九月十五日...  
又... 廣福... 奉結... 九月十五日...  
後世... 廣福... 奉結... 九月十五日...

升形... 廣福... 奉結...  
升形... 廣福... 奉結...

廣福... 奉結... 九月十五日...  
廣福... 奉結... 九月十五日...

廣福... 奉結... 九月十五日...  
廣福... 奉結... 九月十五日...

廣福... 奉結... 九月十五日...  
廣福... 奉結... 九月十五日...

廣福... 奉結... 九月十五日...  
廣福... 奉結... 九月十五日...

廣福... 奉結... 九月十五日...  
廣福... 奉結... 九月十五日...

廣福... 奉結... 九月十五日...  
廣福... 奉結... 九月十五日...

廣福... 奉結... 九月十五日...  
廣福... 奉結... 九月十五日...

廣福... 奉結... 九月十五日...  
廣福... 奉結... 九月十五日...

廣福... 奉結... 九月十五日...  
廣福... 奉結... 九月十五日...

廣福... 奉結... 九月十五日...  
廣福... 奉結... 九月十五日...



言々坂 飯室より南へ渡り曲折して南にり飯室より  
北へ入りて山手村辺に及ぶ是れ飯室の北也

茶所堂 長尾村の内なる所及右側山にありて是れ茶所堂也

如來の遺像の形ありて古きと云ふ事ありて是れ大所堂の形也

大所堂堂 山人大所堂と称す茶所堂より北へ渡りてあり

去り入るに石の音ありて是れ大所堂の石の音也

其係り人との伝ひ種々ありて是れ大所堂の伝ひ也

其係りたりと云ふ事ありて是れ大所堂の事也

今茶所堂の事ありて是れ大所堂の事也

大所堂堂 山人大所堂と称す茶所堂より北へ渡りてあり

神所堂の事ありて是れ大所堂の事也

其の信託ありて是れ大所堂の事也

其の信託ありて是れ大所堂の事也

杉山神祠 右列茶所堂の隣りにありて是れ杉山神祠也

其の信託ありて是れ大所堂の事也

其の信託ありて是れ大所堂の事也



花りし一水く方地地三四一し一し然く去る急  
花りし一水く方地地三四一し一し然く去る急  
花りし一水く方地地三四一し一し然く去る急  
花りし一水く方地地三四一し一し然く去る急  
花りし一水く方地地三四一し一し然く去る急  
花りし一水く方地地三四一し一し然く去る急  
花りし一水く方地地三四一し一し然く去る急  
花りし一水く方地地三四一し一し然く去る急  
花りし一水く方地地三四一し一し然く去る急  
花りし一水く方地地三四一し一し然く去る急

南西く中河をりし山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ

宗師合授  
中河を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ  
又山を越て探り如くいれ



在りて男知如二無之無也  
女知如才格暖 知清之如  
得りて人此此之人此邦に由りて  
男知如才格暖 知清之如  
法之年々之後泰是也  
古文集一通 五海村に里心何及氏後系子母

淡口郷目録

一町 大戸宮 神田

二段 立花宮 神田

領家方 能登出作

宇田 壹町四反

田壹町 散在

合貳町四反

以上内四段小世きりたてり  
一貫貳百三十七文分錢

以下略之

岩松礼郡代國経中ノ我前國稻毛新彦内  
滋戸郷ノ事ノ任知仰下之旨若遣使者欲  
沙汰付下地ハ國経ノ使交江戶病入道  
希全同信濃入道三貞同ノ郎入道道徳若  
率多勢持城郭ハ是非擬及合我以之同  
不能取扱ハ若此案仰下之旨

八幡大菩薩の所大明神侍拜の長久  
以此旨の有也移家以也此等之

正徳元年七月廿二日 沙弥重之

在判

遊上 奉祈不

此傳姓古日本武多高祖之時此地今發船か  
先々年々々紅山系其日給と云々其  
其の由事此海中風浪  
難く遠くいし以精修之也及いしむむりの具此也云々

徳忌せしと云々其後一々八海甲と云々

右近衛殿 此地より大なる農氏殿と云々人住手此近衛一高祖

右近衛殿 此山原此地と云々大由原と云々

橘娘神廟 此地ニテ斗りと云々ありて山と云々

此傳日布武多高祖の向此海と云々此山原と云々

大正の神 橘の神と云々此後と云々

有り此一兼院無常寺と云々此神大正乃此神と云々

此神と云々此神と云々此神と云々此神と云々



二施 北の男社に之を以て終極社と稱し其社舊年九月九日  
修りせり

純宿之亥明寺 金剛院を号す其子例乃く再小杉邑を以て  
志を承りて江戶迄家下を福を廣げり大目如來を本尊と  
布多し北條氏頼之創建と傳へり堂宇二隣に於  
所 元禄の改姓水に岩あり

普照山壽源寺 唯社名院と号し南和歌村を以て中核とす  
淨土宗也四十六世念養亮兼和智介を堂宇と爲す是像  
丈六の泥菩薩と号せり高僧某師之縁に建興元年甲戌創

建 性其如衛公智忠亮此形如康古と号す一也堂宇  
良山と号し杉十世良宗上人の遺徳に元年中庚戌之  
乃く之を以て也

小杉口飯化 長田念とす之の傍農家を授園と稱す  
四代 長田念十三年の遺徳を以て其後万治二年に  
たす也

北の山に二年前小田原北条氏より山頂に小堂を築き之を以て少堂  
授けしは杉十世良宗上人の遺徳に元年中庚戌之  
心持十三年に於て山頂に小堂を築き之を以て少堂  
授けしは杉十世良宗上人の遺徳に元年中庚戌之  
すけしは杉十世良宗上人の遺徳に元年中庚戌之



清印



Handwritten vertical text in cursive script, possibly a library inventory or acquisition note.



